令和4年度　島根県立松江農林高等学校学校評価表

分掌	目標	取組指標	成果指標	評価基準			達成値	評価	総合評価と反省及び次年度への課題等	総合評価	学校評議員評価
				A	B	C					
総務部	松農発表会や学校説明会、体験入学、HPなどを通して、本校の活動を効果的に紹介する。	・HPや体験入学を活用し、PR活動に努める。 ・わかりやすい資料を使って学校説明を行う	・昨年度並みの体験入学や様々なPR活動をとおして、志願倍率が1倍を維持する。	>1	1>0.9	0.9>	1.14	A	2年連続して志願倍率が1倍を維持することができた。	A	A
	PTA活動の充実を図り、保護者主体の取組みになるよう工夫する。	・総会、PTA活動の日、収穫祭での保護者の参加を促し、保護者中心の運営を行う。	・総会、PTA活動の日、収穫祭で保護者の30%以上の参加を目標にする。 ・運営について役員の参加を求める。	30%	20%	10%	24%	B	PTA総会は中止、PTA活動の日は64人参加、収穫祭の模擬店運営に44人が参加していただいた。合計108人より24%の参加率であった。	B	B
	職員会議や運営委員会などの資料のペーパレス化を推進する。	・会議資料をPDFで提出してもらう。 ・各種会議に個人用パソコンを持参してもらい会議を行う	・電子ファイルを活用した会議の割合	50%	40%	30%	62%	A	1月上旬現在職員会議13回中、8回ペーパレス化を実施しており62%の会議率である。	A	A
教務部	生徒にとって魅力ある学習活動を展開する学校を目指す。	生徒が主体的に学習に取り組む態度を育むために、ICT機器を活用する。	Googleフォームを利用した、学習時間調査や授業アンケート等を実施する。	1学期より実施できた	2学期より実施できた	実施できなかった	1学期より実施した	A	Classroomを利用した調査やアンケートを実施したことにより、調査・集計にかかる時間を短縮することができた。授業アンケートに関しては、意見要望をコメントする生徒が1年生を中心に増加した。これをもとに授業担当者は授業改善に取り組むことができた。次年度も日常的に端末を利用する機会を増やし、学習に向かう意欲や主体性を高めていきたい。	A	A
		教員の授業改善を進める	生徒による授業アンケート項目（カ）「自分は主体的にこの授業に参加していたか」の評価平均が90%以上	90%以上	85%以上	80%以上	90.6%	A			A
	校務支援システムの活用を推進する。	校務支援システムの教務統計機能を充実させる	科目選択、履修者名簿等の機能を活用できる体制を整える。	3回以上	2回以上	取り組めなかった	23回	A	履修者名簿や生徒の顔写真取り込みなどの機能を活用できる体制は1学期の途中に整えることができたが、機能の周知には課題が残った。	B	B
		新教育課程に基づいた校務支援システムの成績処理機能を円滑に運営できるように支援する	校務支援を活用した教員の支援の実施割合	支援回数が1学期の半分以下に減少	支援回数が1学期の25%以下に減少	支援回数が1学期と変わらない	60%	A	観点別評価による成績処理が行えたことで、授業と評価の一体化や主体性の評価の在り方について提案することができた。今後さらに取り組みを進めることが必要だと考えている。	A	A
生徒指導部	ルールやマナーを守り規範意識を高める	登校指導や自転車の鍵かけ指導を常時行う。	無施錠を3回以上繰り返す生徒数	10人以下	11～20人	21人以上	15人	B	1学期1年生の無施錠が多かったが、指導の成果が上がり徐々に無施錠が減少した。引き続き鍵掛け指導の徹底を図る。	B	B
		携帯電話の管理と使用に関する指導を適宜行う。	携帯電話の使用について指導を要した生徒数	15人以下	16～30人	31人以上	34人	C	校内での携帯電話の使用ルールの改定以降10件のルール違反があり、年間を通しおおかった。タブレットの使用を含め、ルールマナーの順守を呼び掛ける。		B
		服装指導を各学期複数回行う。	指導により身だしなみが改善した生徒数	10人以上	5～9人	4人以下	7人	B	頭髪の違反を改善した数である。学校評価アンケートに頭髪、ピアス、スカート丈等農林生の見た目が悪いとの指摘があり、生徒諸君の規範意識の向上を全教職員で図る。		B
	諸活動を通じて協調性を高め、他を思いやる心を育てる	学校行事（体育祭、収穫祭等）での諸活動を通じて、クラスや学校の連帯感を高める。	学校行事に対する満足度（学校評価アンケートより）	80%	70%	60%	96.2%	A	体育祭は天候不順で予定通りには実施できなかったが、3年生を中心にまとまりのあるものであった。収穫祭は3年ぶりの普通開催で、販売、模擬店と生徒が主役として活躍した。	A	A
		生徒会活動（球技大会等）を通して、生徒の自治能力を育てる。	生徒会活動に対する満足度（学校評価アンケートより）	80%	70%	60%	92.4%	A	コロナ禍の制限が掛かる中生徒会役員、体育委員を中心に運営し、満足の行く生徒会活動ができた。		A
	部活動の在り方を考慮しつつ、活動の充実を図る	部活動紹介や、各部のPR活動を推奨し、入部率を上げる。	部活動への加入率	80%	70%	60%	76.3%	B	全校の加入率は77．4%、1年生の加入率は76．3%であった。各部の活動を活発にし、成果を上げることで加入率UPに繋げていきたい。	B	B
保健部	生徒自らが、心と身体の健康に努め、自己管理できる能力を育成する	健康チェックや感染症予防の徹底	Googleformを利用した健康チェックの提出体制の構築	1学期より実施	2学期より実施	3学期より実施	96.2	A	体育祭は天候不順で予定通りには実施できなかったが、3年生を中心にまとまりのあるものであった。収穫祭は3年ぶりの普通開催で、販売、模擬店と生徒が主役として活躍した。	A	A
		支援体制の構築	相談利用件数	30件	20件	10件	92.4	A	コロナ禍の制限が掛かる中生徒会役員、体育委員を中心に運営し、満足の行く生徒会活動ができた。	A	A
		保健室と関係各所との連携し、生徒支援に取り組む。	生徒の在籍異動数	昨年度の50%	昨年度の65%	昨年度の80%	76.3	B	全校の加入率は77．4%、1年生の加入率は76．3%であった。各部の活動を活発にし、成果を上げることで加入率UPに繋げていきたい。	B	B
	安心・安全な学習環境を目指し、環境・美化意識の向上に努める	安全点検や各種検査、測定の徹底	安全点検の実施率	95%	90%	80%	93%	B	安全点検の依頼はしたが、実施と点検簿の回収において、全てはできなかった。	B	B
		清掃活動の改善（モップ化）	モップ化できた掃除箇所	8カ所以上	6カ所以上	4カ所以上	4／12カ所でモップ化	C	感染症防止の為の備品で予算が必要な中、クリーナーやモップの予算にあてることができず必要数を確保できなかった。		C
進路指導部	生徒が自身の変化のあり方を客観視し、自分の個性や適性を意識する	キャリアパスポート内で、自分自身のあり方について振り返りを行う。	2回以上行う。	2	1	0	2	A	2学期と3学期にそれぞれ1回ずつ行うことができた	A	A
		卒業時までに生徒全員の進路を決定する。	卒業式までの進路決定者の割合	90	80	70	98	A	進学志望ながら、未定者あり　98%決定		A
	生徒が複数の方面から進路情報を得ることで、的確な進路選択を行うべく広い視野を広く持つ	進路ガイダンス、進路学習会、企業ガイダンスなど計画的に行い、進路指導に関する実践をHPに掲載する。	計画通りに実践できた割合	90	80	70	85	B	HP掲載を毎回行うことはできなかった	B	B
	SPIの学びを通して生徒の学力向上と自信につなげる	テキストの内容を一通り指導し、基礎学力の向上を目指す	計画通りに実践できた割合	80	60	40	65	B	指導の実施状況の確認まではできなかった	B	B
図書・研修部	生徒主体の図書委員会活動を活性化する。	図書委員長等を中心に、生徒の意見やアイデアを取り入れた図書館活用イベントを企画・実施する。	年間3回実施する。	3回以上	2回	1回以下	2回	B	7月と3月に実施。図書委員会がテーマ及び内容を決め、役割分担して実施。また、読書感想文集の原稿入力も手掛けた。	B	B
	生徒の学習活動を支援し、図書館運営を充実させる。	図書館オリエンテーション、朝読書を刺激・喚起する校内放送、広報活動等により、読書活動の推進を図る。	70%以上の生徒が一冊以上本を借りる	70%以上	69～50%	49%以下	66%	B	図書館オリエンテーションを5月に実施。新入生研修に位置付けて4月から利用できるようにする。Googlelassroomで利用促進する。	B	B
	教職員のICT活用を推進する。	指導者用端末を使った便利な機能や実践例を紹介し、操作してみるミニ研修会を企画・運営する。	年間3回実施する。	3回以上	2回	1回以下	3回	A	ミニ研修3回、コース別研修1回実施。GoogleclassroomやFoamsの使用頻度が増加。ICT支援員の活用が課題。	A	A
人権教育部	自他の人権を尊重し合う豊かな人間関係の形成の支援に努める。	いじめに関するアンケート調査を実施し、いじめの実態把握と早期発見・早期解決に努める。	学校評価アンケートで、いじめアンケートの効果について肯定的な回答をした生徒の割合	80%	70%	60%	90%	A	いじめアンケートを全てグーグルフォームで行ったが、匿名性が高いこともあって様々なことを書く生徒がいた。その一方、提出率は伸び悩んだ。次年度は提出率の向上と情報の活用について検討していきたい。	A	A
		アンケートQUを実施し、情報共有の機会を持ち、結果を効果的に活用する。	学校評価アンケートで、アンケートQUの効果について肯定的な回答をした教員の割合【Q1】	80%	70%	60%	実施せず	C	担当者との連携不足により、アンケートQUを有効的に活用できなかった。次年度は実施の是非について検討したい。	C	C
	生徒の実態に即した人権教育、道徳教育を推進する。	各学年部との連携のもと、生徒の実態に即した人権教育、道徳教育に関するHR活動を行う。	学校評価アンケートで、人権教育に関するHR活動の効果について肯定的な回答をした生徒の割合	80%	70%	60%	93%	A	各学年の担当者を中心に生徒の実態に合わせ充実した人権教育HRを計画・実施することができた。次年度も生徒の実態を把握した上で、より充実したHRとなるよう計画・実施していきたい。	A	A

分掌	目標	取組指標	成果指標	評価基準			達成値	評価	総合評価と反省及び次年度への課題等	総合評価	学校評議員評価
				A	B	C					
	特別な支援が必要な生徒に対して効果的な支援を行う。	1年生対象にHR活動を行い、特別支援教育に対する生徒の理解を深める。	HR実施後のアンケートで、特別支援教育に対する理解が深まったと感じた生徒の割合	80%	70%	60%	実施せず	C	担当者との連携不足により、特別支援教育についてのHRを実施することができなかった。次年度は保健部と協力し計画的に実施できるよう努めていきたい。	C	C
		教員対象の研修会や情報発信を行い、共通理解のもとで支援を進める。	研修会後のアンケートで、特別支援教育に対する理解が深まったと感じた教員の割合	80%	70%	60%	実施せず	C	担当者との連携不足により、特別支援教育についての研修を実施することができなかった。次年度は保健部と協力し計画的に実施できるよう努めていきたい。	C	C
魅力化推進室	課題研究の高度化	校内における新規性・社会性・科学性のある研究の推進	連携研究に取り組んだ数	15	12	10	15	A	研究活動の充実は、少しずつ進んできている。しかし、今年度指標とした目標に関して目標の達成ができなかった。「課題研究の高度化」に向け、生徒と教員、教員間での視点の共有を図り、学校全体のレベルアップの努めていきたい。	C	A
		島根大学、島根県立大学との連携の推進	取り組み具合 hpへの掲載数	15	12	10	9	C			C
	高大・地域連携学習の推進 島根大学・島根県立大学との連携	学科・系列の特色を生かした連携事業の推進	島根大学への合格・・・10 島根県立大学への合格・・・10	20	15	10	5	C	指標とする進路実現に向け、高大連携事業や課題研究等の活動を生かすことができるように学校全体での支援体制の充実が必要である。		C
	校外へのPR活動の推進	中学校への説明、体験入学、松農発表会、進路説明会、ホームページなどをとおしてPR活動を推進する	令和3年度の実績と比較し、PR活動に積極的に取り組むことができたか。（前年比）	150%	120%	100%	130%	B	今年からインスタグラムによる情報発信を開始するなど、今後も継続してPR活動に取組んでいる。	B	B
農場部	課題研究の高度化や学校農業クラブ活動を活性化させ主体的に学ぶ姿勢を育成する	地域・上級学校との連携・協働した研究を実践する	課題研究における研究の数	15	11	8	7	C	・島根大学・県立大学との連携研究及び八束町をフィールドとした地域解決型研究に取組み、一定の成果をあげることができた。課題としては研究の高度化と指導体制の在り方を検討する必要がある。 ・今年度は鑑定競技全国大会において2名の入賞者を出すことができた。今後の活性化を推進する意味でも、指導方法の検討が必要。	B	B
		農業クラブ活動を活性化し、学習活動を行う	県大会における最優秀の数	最優秀2 優秀賞15	優秀賞10	優秀賞5	最優秀2 優秀賞15	A			B
	実験・実習をとおして農業教育を推進する	安全管理をおこない事故のない実験・実習を行う	実験・実習中に起こったケガ等の数	重大事故:0 けが:0	重大事故:0 けが:5	処置が必要なけが:10	重大事故0 処置が必要なけが17	C	・今年度について特に重大な事故はなかったがケガが多かった。引き続き、安全・安心な実習、指導を心がけていく必要があるとともに生徒への安全意識についても事前に十分な指導が必要である。	C	C
生物生産科	農業に関する学習をとおして、何事にも粘り強く取り組む力を身に付ける。（アクション力）	主体性、選択する力、働きかけ力、実行力の定着と向上を目指し、下記の取り組みを実施する。 ・授業で学んだ知識を「技」として発揮する活動を行う。 ・研究や調査、栽培管理等において自分の考えを試す活動を行う。	アンケートにおいて、「粘り強く取り組む力」について肯定的に評価した生徒の割合により評価する。	80%	70%	60%	93.8%	A	専門科目において、授業と実験実習のマッチングや自分で考えて決める場面等を設定したことで、多くの生徒から肯定的な回答が得られた。一方で、アクション力の習得度合いには個人差もあり、丁寧や個別支援を継続したい。	A	A
	農業に関する学習をとおして協働的に取り組む態度を身に付ける。（チームワーク力）	発信力、傾聴力、柔軟性の定着と向上を目指し、下記の取り組みを実施する。 ・対話的な学習場面を効果的に取り入れる。 ・友人と協働して学習する場面を効果的に取り入れる。	アンケートにおいて、「協働的に取り組む態度」について肯定的に評価した生徒の割合により評価する。	80%	70%	60%	98.4%	A	授業や実験実習の場面ににおいて他者と協働して学習する場面を取り入れたことにより、多くの生徒から肯定的な回答が得られた。一方で、対話的な学習や協働的な学習を苦手とする生徒について、丁寧な個別支援を継続したい。	A	A
環境土木科	マナーや規範意識を高め、真剣に学習に取り組む態度や、社会人としてふさわしい道徳規範を身につけた行動ができる。	（1）実験・実習において、安全項目を確認し機械等を大切に取り扱い、破損や紛失をなくすとともに、ケガなどによる保健室利用がなかった。	（1）授業評価において、安全に配慮され、学びやす学習環境であったと感じる生徒の割合	90%以上	80%以上	80%未満	92%	A	夏期実習において体調不良、環境整備実習で軽傷を負う生徒がいたが、大きな事故はなかった。	A	A
		（2）授業に意欲的に取組み、必要とする知識や技術を習得することができた、	（2）授業評価において、分かりやすい授業展開であったと感じる生徒の割合	90%以上	80%以上	80%未満	86%	B	電子黒板やWiFi環境、CAD室等が整備され、全ての科目で視覚に訴える授業が展開できるようになり、理解度が高まったようである。		B
	課題解決に向けた目標設定ができ、計画的に物事に取り組むとともに、結果に対して適切に考察することができる、	（1）取得すべき資格試験を自ら選定し、合格に向けて意欲的に学習することができたか	（1）各種資格試験に合格した生徒の割合	50%以上	30%以上	30%未満	45%	B	測量士補7名、2級土木施工管理14名、2級造園施工管理4名合格	B	B
		（2）各種行事の提出課題や事後レポート作成に真摯に取り組み成果をあげることができたか	（2）指定された課題・レポートの提出された割合	100%	90%以上	90%未満	92%	B	校外学習、体験学習、インターンシップ等終了後にレポートを提出させた。期限内提出者は100%に届かなかった。		B
総合学科共通	系列や科目等の自由選択に主体的に取り組む生徒の育成	生徒自身が、進路希望等に照らし合わせて系列や授業の選択に、主体的に取り組むよう支援する。	生徒が自身の進路選択に合わせて、有効な選択ができたか。（アンケート調査・面談等）	90%以上	80%以上	80%未満	100%	A	担任を中心に生徒と面談を繰り返し、全員が現時点の進路志望に合わせた系列や科目の選択をすることができた。	A	A
	キャリアガイダンス科目の新学習指導要領に対応した学習内容等の確立	『産業社会と人間』について、新カリキュラムに沿った学習内容と評価方法を確立する。	年間指導計画が次年度につながる内容になっているか、またその評価方法は有効なものになっているかについて、活動別にそれぞれ適当であるか担当教員で評価する。（教科・系列担当それぞれで評価）	平均80%以上	平均60%以上	平均60%未満	70%	B	活動内容としては、例年取り組んできたものを見直し、発表方法や発表回数等について改善することができた。しかし評価については活動別に確立できなかった部分が多く、課題が残った。産社選択との兼ね合いを含め、評価方法については次年度の最重要課題としたい。	B	B
	地域の企業や大学等、外部機関との連	魅力化推進室と協力し、企業や大学等の外部の諸機関と連携して、活動の充実を図る。	魅力化推進室と連携して、前年度以上に外部の諸機関と連携して活動を進めることができたか。（連携した活動実数）	前年度比＋3以上	前年度比±2以内	前年度比－3以下	＋3	A	魅力化推進室と連携した活動数は、ほぼ前年度と同等だったが、推進室を介して、食品系列を中心に企業や大学との連携回数は増加した。これまでの取り組みをあたためつつ、推進室の協力も得ながら、今後も各系列を中心に、積極的に活動を進めたい。	A	A
食品系列	生徒の適性に即した進路指導を早期から行う。	課題研究や企業見学を通し、地元企業、上級学校との連携を深め、進路選択に役立てる。	食品に関連する企業への就職または関連性のある上級学校への進学の割合。	60%以上	50～59%	50%未満	40%	C	課題研究活動や教科クラブ活動の充実させ、食品や農業について考える時間を増やす。食品で培った知識や技術をもちいて社会にどう貢献できるかを考えさせるなど生徒が自己理解を深める機会を設ける。	C	C
	HACCPの観点を取り入れた安全・安心な実習が行える。	生徒が事故なく実験・実習を行うとともに異物混入等のない安全な商品の製造を行えるようになる。	HACCPの7原則、12項目を遵守し、安全・安心な実習を行う。	10割	9割	9割未満	1	B	HACCPを遵守し、安全・安心な実習を行うという目標の下、昨年度よりさらに配慮しながら実習をすることが出来た。また生徒のケガ、事故もなく十分に目標を達成することができた。	B	B
	ICT機器を用いた授業改革	ICT器機等を用いて分かりやすい授業を行うことで、生徒の興味・関心を高める	アンケートにおいて、食品系列の授業に対する興味・関心がもてたと答えた生徒の割合。	80%以上	70～79%	70%未満	1	B	微生物や食品科学の授業について生徒の苦手感が強く見られた。専門用語が難しい等の要素が原因だと思われる。生徒が探究的に学んでいくなかで興味関心が高められるよう授業を展開していくことが望ましい。	B	B
福祉系列	実習及び体験的学習を充実させ、生徒が基礎的な知識・技能を習得・活用する力を身につける。	定期的に小テストや実技テストを実施する。	小テストと実技テストの実施回数	30回以上	20回以上	20回未満	38回	A	小テストの内訳(3年:13回/2年:11回/1年10回)。実技テストの内訳(3年:2回/2年2回)。 小テストについては単元ごとに実施し、基礎的な知識の習得につなげた。実技テストにおいても、演習科目において実施し、技能の習得につながった。	A	A
		外部講師による特別講義、介護技術指導などの活動を実施する。	特別講義、介護技術指導の実施回数	5回以上	3回以上	3回未満	23回	A	特別講義10回/介護技術指導の実施回数13回 視覚障がいについて(盲学校との交流)や認知症サポーター、赤十字による幼児安全(救急)法など複数の特別講義を行った。介護技術指導は学習アシスタントの方に来てもらい、指導を行ってもらった。その結果、本校として介護技術コンテスト中国大会初出場を果たした。	A	A
	生徒の学習を地域へ積極的に情報発信を行っていくことで生徒の達成感および肯定感を高める。	魅力化推進室との協力、本校HPの積極的な活用を行う。	HPへの掲載回数	20回以上	10回以上	10回未満	15回	B	適宜、福祉系列の活動をHPへ掲載していたが、年間で20回以上とはならなかった。次年度は特別講義や賞を得たときのみならず、日々の活動も含め、定期的(月2程度)にHPへの掲載を目標とする。	B	B

分掌	目標	取組指標	成果指標	評価基準			達成値	評価	総合評価と反省及び次年度への課題等	総合評価	学校評議員評価
				A	B	C					
地域系列	校外学習や地域との連携に際し、その場にふさわしい挨拶や服装および態度ができている。	授業を始め、学校生活全般において、社会人として必要な挨拶やその場にふさわしい服装や態度ができる。	年度末アンケートにおいて、授業や様々な学習活動で、その場にふさわしい服装や態度ができているという割合	80%	50%	50%未満	生徒71．2保護者84．5	B	地域系列では校外学習が多く、身だしなみや態度などその都度声かけをおこなってきた。生徒、保護者の評価は比較的高いが、教員の評価は58．5%と評価に差が生じている。絶えず声かけをしていきたい	B	B
	専門教科を通して、地域の課題や資源について知り、地域の環境改善を図る。	様々な発表やまとめを通して、課題を明確化し発表し、互いの意見や完成物を高め合う活動ができる。	発表会などを通して、他者の考えや思いを理解し、前向きな考えや意見を持つことができると自己判断する肯定的評価の割合。	80%	50%	50%未満	生徒97．8保護者97．3	A	生徒。保護者共に体験学習や実習を通して成長できたとする高い評価であった。今後の地域の課題等に積極的に向き合い、生徒の学習への意欲を高めたい。	A	A
	校外の企業や、各県機関との連携を図る。	進路希望状況を踏まえ、進路希望に合わせた地域のとの連携を持つことができる。	年度末アンケートにおいて、課題研究等の発表において、地域との関わり合いを持てたと答えた生徒の割合。	80%	50%	50%未満	．1保護者	A	今年度は大根島の耕作地解消をテーマに課題研究を進めた。担当教員の交代など生徒に戸惑いを感じさせたが、企業との連携や現地調査などできる範囲でおこなう事ができた	A	A
3年学年会	自他を尊重し合う豊かな人間関係を築くとともに、社会人として必要なマナーや規範意識を身につける。	集団生活をとおして、自分の行動が他者に与える影響について主体的に考え、行動をより良く改善し、社会性を育む。	生徒・保護者による学校評価において、時間や校則が守れた、と感じる生徒・保護者の割合	85%	75%	65%	78%	B	保護者評価より生徒評価が低かった。生徒自身が、守れていないと認識しながら生活していることが窺える。このことを、指導に活かしたい。	B	B
	自らの進路実現に向け、主体的に学習に取り組み、自分で進路選択をする。。	授業の中で疑問に感じたことを調べたり、自身の考えを他者に伝えたり、他者の考えを聞いて思考を深めたりといった学習活動を行う。	生徒による学校評価において、積極的に学習活動に取り組み成長できた、と感じる生徒の割合	90%	80%	70%	95%	A	学習への取組の自己肯定感は高い。努力が評価につながっていることが理由だと考える。	A	A
		生徒の希望する進路実現に向けて、個別の面談を必要に応じて実施する。	面談１人当たりののべ回数	6回	4回	2回	6回	A	クラス差、個人差はあるが、概ね6回以上を達成できた。回数をこなして良かったということではなく、生徒保護者の希望する進路に幅広く対応できたと感じている。	A	A
		課題研究の高度化を図るためiに、高大連携学習の推進を図る。	高大連携学習ののべ回数	50回	30回	15回	18回	C	B科１１回、E科0回、C科福祉・地域0回、食品2回、魅力化5回という結果だった。B科、魅力化では、活発に行われたがE科やC科では回数が少なかった。生徒の進路にあわせ、課題研究を大学と連携して進めていけるように改善を図りたい。	C	C
2年学年会	基本的生活習慣の定着を図る。	集団生活をとおして、自分の行動が他者に与える影響について考え、行動をより良く改善するための主体性を育む。	生徒・保護者による学校評価において、時間や校則が守れた、と感じる生徒・保護者の割合	85%	75%	65%	81%	B	肯定意見は校則に関する質問より、時間に関する質問の方が多かった。次年度は校則に関する指導に力を入れたい。	B	B
	自らの進路目標設定に向け、主体的に学習に取り組む態度を育てる。	授業の中で疑問に感じたことを調べたり、自身の考えを他者に伝えたり、他者の考えを聞いて思考を深める活動を行う。	生徒による学校評価において、積極的に学習活動に取り組み成長できた、と感じる生徒の割合	85%	75%	65%	91%	A	学習活動への取り組みに関する生徒の自己評価は高い。学習の量および質の向上を図りたい。	A	A
		学習習慣を確立し、基礎的な学力の定着を図る。	定期テスト1週間前から、1日あたりの学習時間平均3時間以上を確保できた生徒の割合	70%	60%	50%	52%	C	学習習慣の確立に課題が残る。次年度はスタディサプリ等を活用し、引き続き基礎学力の定着を図る。	C	C
		進路目標設定に向けて、個別の面談を必要に応じて実施する。	面談１人当たりののべ回数／年間	5回	4回	3回	4.5回	B	担任・副担任が協力し、面談を実施することができた。回数だけでなく面談の中身を重視し、引き続き丁寧な指導をしていきたい。	B	B
1年学年会	基本的生活習慣の定着を図り、自他を尊重し合う良好な人間関係を構築する。	個人又は集団での時間管理ができる。	学年全体の出席率が99%以上となったか。	99%	97%	95%	97%	B	コロナやインフルエンザによる欠席があり、欠席が多いように思われたが、実際の出席率はほぼ良好で、基本的生活習慣が確立されているといえる。	B	B
		場に応じた挨拶や言葉づかいができる。規則やルールを守り、身の回りの整理・整頓ができる。	服装検査の違反者が5パーセント未満となったか。	5%未満	8%未満	10%未満	100%	A	社会に通用するマナー、服装、言葉遣いが身につくように今後も指導していきたい。		A
		諸活動をとおして他者と関わり、豊かな人間関係を育成する。	部活動の入部率が90%以上なったか。	90%	88%	85%	77%	C	学年として部活動を推進しているが、部活動以外の活動をしている生徒も応援したい。		C
	主体的に学習に取り組む態度を育て、個に応じた進路指導に努める。	各教科担当と連携を図りながら学習習慣の確立に努め、基礎的な学力の定着を図る。	定期テスト1週間前から学習時間平均3時間以上確保できたか。	3時間以上90%	3時間以上70%	3時間以上50%	33%	C	全体的に学習時間を確保することができていない。特に2学期は中だるみした。3学期は持ち直したので、来年度へつなげたい。試験内容の見直しも必要である。	C	C
		教員間との情報共有に努め、生徒一人一人に応じた進路指導をおこなう。	各学期生徒面談ができたか。 各クラス面談実施率が100%となったか。	面談100%実施	面談95%実施	面談90%実施	100%	A	面談週間を利用してしっかり面談できた。今後も生徒ひとりひとりと向き合う時間を大切にしたい。	A	A
事務部	施設・設備の適切な整備及び維持保全管理を行い、安全・安心な学習環境づくりに資する。	施設・設備の維持保全や速やかな修繕対応を行うとともに、備品等の適正配置と計画的な整備に努める。	生徒、保護者が学校の施設・設備の整備及び管理状況について、適切だと思っている割合	80%	70%	60%	92.7%	A	R4年度は、感染症対策関連予算も活用して、施設・設備を整備することができた。主なものは、空調設備・換気扇の更新、教室の照明のLED化、実習車両等の更新など。学科改編時からの施設など、老朽化した施設・設備の整備を図るよう、引き続き進めてまいりたい。	A	A